報道関係各位
プレスリリース　教育／安心・安全／大阪

活力ある社会をめざして
株式会社 類設計室
2025 年 7 月 18 日

【全日制フリースクール「類学舎」】
子どもたち主体で AED 講習会を開催！
AED ミュージアムと共同し、「命の大切さ」をテーマに心肺機能停止・心肺蘇生について学び・発表します
～7／30（水）株式会社類設計室大阪本社 3F にて～

株式会社類設計室（本社：大阪市淀川区、社長：阿部紘）教育事業部の全日制フリースクール「類学舎」は 7 月 30 日（水）、類学舎生（小 4～高 3）の子どもたち主体で AED（自動体外式除細動器）の使い方を学び、「命の大切さ」について発表します。当日、子どもたちは、AED ミュージアム（大阪市淀川区東三国）の館長・齊藤秀雄さんを招いて AED の講習を受け、使用方法とともにその歴史や心肺機能停止・心肺蘇生について深く学習します。

夏は子どもたちがプールや水辺で遊ぶ機会が増え、水難事故の発生確率も高まります。また暑い中で外遊びすれば、体に負担がかかります。そんな中、子どもたち自身が AED を通して、安全安心について学ぶことは大きな意義があると私たちは考えます。子どもたちが AED を使用できるようになることで、一次救命参加の人数を増やすことに加え、AED の社会認知拡大に寄与します。

当日の AED 講習では、**日本に一体しかない女性型 7 人形**も持ってきてもらい、通常のもの（男性型）との違いも、子どもたちに体験してもらう予定です。

右写真　AED ミュージアムで行われた親子対象の AED 講習（本件とは関係のないイベントです。提供・齊藤秀雄館長。写真は一部加工しています）

【概要】
開催日時：7 月 30 日（水） 9 時 30 分～12 時
場　　所：弊社大阪本社 3 階（大阪市淀川区西中島 4- 3 - 2 類ビル）
内　　容：
類学舎生（７０人在籍）の中で、AED に興味がある生徒 2 人が AED ミュージアムの齊藤館長から AED と一次救急について学び、発表に向けて準備中。発表当日は類学舎生と先生、大人たちの前で、その成果を発表します。当日の発表会では、齊藤館長を講師に招き、類学舎生が AED の使い方を学びます。

【当企画のきっかけ】
類学舎では、講師は AED 講習を受講するなど安全対策を講じていますが、当事者の子

●お問い合わせ　株式会社類設計室 経営統括部 広報人材課
TEL：06-6305-2222　E-MAIL：kouhou@rui.ne.jp　https://www.rui.ne.jp/

報道関係各位
プレスリリース　教育／安心・安全／大阪

2025 年 7 月 18 日

どもたちは果たして AED についてどれだけ知っているのか？　――そんなふとした疑問から、子どもたち自身が AED を“使える人”になる探究講座は面白いのではないかという声が社員から寄せられました。
たまたま AED ミュージアムの齊藤館長と繋がりのある社員がいたので、同館と共創して「AED を通して命の大切さを考えてみよう」という企画が今回実現しました。

類学舎は全日制フリースクールで、子どもたちが（大人のいる現場に入って）実際の仕事や会社で起きている課題に取り組むことで、実社会とシームレスにつながる学びを提供しています。今回の「命の大切さ」をテーマにした AED の学びも、その一環です。

AED ミュージアムでのイベント（本件ではありません）

類学舎、過去の発表会

【参考】
●心肺機能停止の傷病者数と AED 使用数

2023 年の救急搬送人員のうち心肺停止傷病者は 14 万 575 人。うち心臓に原因のあるものは 9 万５５０人だった。そのうち、**心肺機能停止の時点で一般市民により目撃された傷病者は 2 万 8354 人（A）**だった。
2 万 8354 人のうち、一般市民によって応急手当を受けた人数は 1 万 6927 人（B）だった。
さらに、**1 万 6927 人のうち一般市民によって AED を使用され除細動が実施された傷病者は 1407 人（C）に過ぎなかった。**
（2 万 8354 人→1407 人、つまり、その場に人がいたのに、20 人のうち 1 人しか AED による手当を受けることができなかった！）

（A）の一カ月後生存率は 11.８%、一カ月後社会復帰率は 7.4%。
（B）の一カ月後生存率は 14.８%、一カ月後社会復帰率は 10.0%。
（C）の一カ月後生存率は 54.２%、一カ月後社会復帰率は 44.9%。

●お問い合わせ　株式会社類設計室 経営統括部 広報人材課
TEL：06-6305-2222　E-MAIL：kouhou@rui.ne.jp　https://www.rui.ne.jp/

一方、AED が使われた場合、使われない人と比べて、一カ月後生存率は 5 倍に、一カ月後社会復帰率は 6 倍にもなった！

（「令和 6 年 消防白書」の P84 から）

●心肺機能停止よって死亡する児童・生徒数（小学生～高校生）

毎年 50 人～60 人が学校で心肺機能停止によって亡くなっている。AED 普及元年となった 2004 年以降は減少したが、子どもの死亡という特徴を加味すると、その悲劇性は高いといえる。
（独立行政法人日本スポーツ振興センター2024 年 12 月 24 日発表の災害共済給付ナビ「学校等の管理下の突然死～心停止の現状と課題」より）

●学校や教育施設に AED は適切に配置されているか

「第二次学校安全の推進に関する計画」（平成 29 年閣議決定）によって、AED は複数配置含む設置場所の適正化が必要であると述べられています。

AED を設置する場合、①心停止のリスクのある場所（運動場や体育館など）②現場から片道 1 分以内の場所③いつでもアクセスできること（カギなどかけない）が求められます（一般社団法人日本救急医療財団から）。

近畿では、総務省近畿管区行政評価局が「学校における救命活動に関する調査・AED の仕様を中心として」という調査のまとめを発表しています（大阪府、兵庫県、奈良県の小中高を対象）。
このような資料が参考になります。

結論的には、小学校のころから AED や救急について学んでいる地域もあるが、大半はそこまで至っていないようです。中でも、子どもたち自身が AED を使用できるという状態まではないようです。最近の救急隊が現場に駆け付ける時間が以前よりも数十秒余計にかかっているというデータもあります（「令和 6 年 消防白書」）。1 分の差で助かる、その後の復帰にも関係する一次救命。子どもたちが AED を学ぶ意義はとても高いと言えます。

【取材などのお問い合わせ先】
株式会社類設計室　広報人材課
担当・西本、西埜（にしの）
℡０６－６３０５－２２２２
E-mail　kouhou@rui.ne.jp